

NISA様、官邸班様 へ アレス対応TM

東京電力株式会社

情報共有

分室様です。

H23.5.18①議事メモ (最新) .doc Last printed 5/19/2011 12:08:00 AM

非公開メモ

(7枚)

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 5 月 18 日 (水) 11:00~12:10

場所：東京電力本館 3 階 AB 会議室

先方：記者約 50 名 (カメラ 4 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

本店広報部

配布資料：

- ・ 東北地方太平洋沖地震による影響などについて
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ
- ・ 福島第一原子力発電所モニタリングカーによる計測状況
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺サブドレン水核種分析結果
- ・ 「海水からの放射性物質の検出について (第五十五報)」の一部訂正について

質疑：

Q. 2号機に入城する際の装備は、また1号機に入城した時との違いは。

A. タングステンベスト、オーバーオール、セルフエアセット、アノラックを着用。  
1号機に入城した際にはタングステンベストとアノラックは未着用。

Q. 2号機への入城目的は。

A. 以前ロボットで2号機に入った際は湯気等で内部状況が確認できなかつたため、今回はできる限りで内部の状況を確認するために実施した。線量測定結果については、本日午後もしくは明日の会見でお知らせさせていただく予定。

Q. 入城した4人の作業員は全て東電社員か。

A. その通り。

Q. 入城した際に粉塵の採取も行ったのか。

A. ダストのサンプリングも実施している。目的は作業を実施するにあたり、環境改善の必要の有無を検討するため。

Q. 2号機の線量測定はできているのか。

A. 前回ロボットが入った際の測定値は、入口付近で4.1mSv/h。

Q. 今回2号機に作業員が入ったのは事故後初めてか。また今回の入城の際の計画線量は一人あたり10mSv/hということで間違いないか。

A. 事故後の入城は今回が初めて。計画線量は10mSv/hで間違いない。

Q. 3号機の注水量を増やしたことにより温度が下がっているが、今後注水ラインを

H23.5.18①議事メモ (最新) .doc Last printed 5/19/2011 12:08:00 AM

給水系に切り替えていくという方向性に変更はないのか。

A. 具体的な時期は未定だが、パラメータの温度をよく見ながら給水系に切り替えていきたい。

Q. 注水ラインを消火系だけにすることはしないのか。

A. 今後循環注水冷却に移行することを考えると、注水系の方がよいと考えている。

Q. 地震発生後、最後に作業員が2号機に入ったのは3月14日だったが、その際は何の作業をしていたのか。

A. 確認次第、ご報告させていただく。

Q. 本日1号機の原子炉建屋地下でガレキ撤去の作業が行われているか。

A. 1号機原子炉建屋の西側でガレキの撤去を行っている。その他、3、4号機の大物搬入口周辺でガレキ撤去作業、1号機の大物搬入校付近では熱交換器ユニットや空冷チラーの設置作業を行っている。

Q. 3号機タービン建屋地下の水位に変化はあるか。

A. 昨日から3号機タービン建屋の溜まり水を移送しており、トレンチおよびタービン建屋の水位はともに10mm程度下がっている。

Q. バージ船は今まで何のため福島第二原子力発電所に停泊していたのか。またバージ船から淡水を供給した実績はあるか。

A. 淡水を安定的に供給するための予備として停泊している。現在は坂下ダムから供給ができています。実績としては、初期の頃にバージ船からろ過水タンクへ淡水を移送した。メガフロート入港にともない一度福島第二原子力発電所に移送するもの。

Q. 今後、バージ船をどうするのか。

A. 福島第二原子力発電所に停泊させた後どうするかは未定であるが、しばらくは待機させる予定。

Q. 3号機圧力容器内の温度が低下しているが、現在は消火系ラインの効果が出ているということか。

A. どちらのラインが冷却に効いているかは現時点では何とも言えず、給水系、消火系とも水の行き先はそれ程変わらない。注水量を増やしたことで水位が高くなり温度が低下したのではないかと思われる。

Q. 給水ラインで温度が下がらない場合は循環注水冷却の障害になるのか。

A. 現時点で給水ラインから漏洩なく注水できていることからリスクは少ないと考えている。

Q. 3号機タービン建屋溜まり水の移送実績は。

A. 本日午前7時現在で156m<sup>3</sup>。

H23.5.18①議事メモ (最新) .doc Last printed 5/19/2011 12:08:00 AM

Q. 1号機圧力容器の圧力が128.2kPaとのことだが気圧にすると1.2気圧という認識でよいか。また格納容器内の気圧が一定だが、その理由は何か。

A. 128.2kPaは絶対圧なので、気圧より27kPa高い。今回の事故の影響でフランジ部分や貫通部などに若干損傷があり漏れているのではないかと考えている。

Q. 漏れていても窒素を封入する意味はあるのか。

A. 格納容器内は水蒸気が充満しており、今後、冷えていくことで水に凝縮する際に水素と酸素が増加するのを防ぐのと、格納容器の外側の空気が中に入るのを防ぐために窒素を封入している。

Q. 工程表では2、3号機でも窒素を封入する予定だが、そのための準備は容易にできるのか。

A. 準備そのものは1号機と変わらないが、2、3号機は原子炉建屋内に入れていないので現場の接続箇所の確認が必要であると考えている。

Q. 5、6号機の地下の溜まり水の水位は。

A. 確認させていただく。

Q. 1号機に窒素を封入する際は原子炉建屋に入らずに実施していたが、2、3号機は外部からの封入ができないのか。できるのであればなぜ外部から入れないのか。

A. 2、3号機については窒素を封入予定しているラインが原子炉建屋内部にあると聞いている。2、3号機も外部から封入できるライン自体はあるが、現場判断で建屋内部のラインを使用する予定。

Q. 地震発生から圧力抑制室が爆発するまでの間に2号機に作業員が入った経緯はあるか。

A. その間で最後に作業員が2号機に入ったのは3月14日の18時頃と認識している。

Q. 6月にウィーンで開催されるIAEA関係級会合会議の際に提出する事故の報告書を現段階ではどのような形でまとめているか。

A. 保安院から5月28日までにプラントパラメータの評価をまとめるよう指示文書をいただいております。パラメータが無い部分の実態を把握するため、時系列にまとめているが、いつ報告するかは未定である。

Q. 保安院、文科省、東電がチームを作り報告書を作成していると聞いたが、その報告書をまとめる時期はいつ頃か。

A. 現時点で確認できていない。

Q. 今後チーム以外の機関等に報告書を見せて意見を仰ぐ予定はあるか。

A. 基本的に国としての報告になると思われるので、国の判断があるのではないかと思われる。

Q. 2号機の今後の作業の優先順位を教えてください。

H23.5.18①議事メモ (最新) .doc Last printed 5/19/2011 12:08:00 AM

- A. 現場線量およびがれきの状況を確認することで、作業に支障があるかどうか優先的に確認する。また湿気の問題があるため、換気をどのように実施するののかも検討が必要である。その後は、1号機と同様に局所排風機で作業環境を改善するのか、あるいは二重扉を開放しても問題ないレベルであるのかを判断し、建屋内部での作業が可能と判断された後は、1号機と同様に原子炉水位計および格納容器圧力計の校正、窒素封入、注水の切り替え等を実施する予定である。
- Q. これまで公表された1号機の水位計の値が変わっていない理由は。
- A. 当時水位計がそのような値を示していたということを公表させていただいている。今回計器校正した結果、凝縮層に水がない可能性があるため、これまでの値については見かけ上高く示していたと判断している。また並行して実施している解析においても、15時30分に非常用復水器が全て停止したと仮定すると、既にご提示した水位を辿ったと考えている。パラメータについては、現時点で再評価する予定はない。
- Q. これまでのパラメータを補正し直さないのか。
- A. 実際に凝縮層の中の水がどのように減っていたかが不明であるため、このパラメータを補正し直すということは、現時点で考えていない。
- Q. 1号機炉心の解析について、非常用復水器が15時30分に停止している条件を入れ込んでいるが、それ以外の仮定条件は。
- A. 非常用炉心冷却系は交流電源喪失により機能していないこと、SR弁については炉圧の設定値に到達することで開閉する、といった条件が盛り込まれている。
- Q. 解析評価についての仮定条件を公表いただくことは可能か。
- A. 準備してご報告させていただく。
- Q. 配管や弁において一部リークがあった、という条件も入れ込んでいるのか。
- A. 津波発生後において、パラメータ上そのような破断の兆候は見られないため、条件には入れていない。
- Q. 2号機使用済燃料プール冷却装置の設置工事おける具体的な作業内容は。本日の保安院の会見において「既に東電が検討し、数日内で工事が完了する」という主旨の事を話しているが、事実関係は。
- A. 予備的な工事として、ケーブル敷設工事は既に実施しており、今後、国と相談のうえ、具体的な作業に入る予定。
- Q. 福島第一原子力発電所において、これまで放出された放射能の総量を教えてほしい。
- A. 放出総量についてはINESのレベル7を評価した際に、保安院および原子力安全委員会が発表した $10^{17}$ オーダーあり、その後の放出量は桁違いに小さいと考えている。現時点でも開放状態であり、水蒸気等を出ている可能性はあるものの総量としては小さいため、総量としては $10^{17}$ オーダーで変更ないと考えている。原子力安全委員会がJAEAの報告書という形で総量評価を実施しており、ヨウ素131、セシウム137についてはレポートにて報告済である。

H23.5.18①議事メモ (最新) .doc Last printed 5/19/2011 12:08:00 AM

- Q. 2号機原子炉建屋内の作業については、当初、昨日実施する予定であったと思うが、本日実施した理由は。
- A. 建屋内の線量に関して未知の部分あり、装備の確認や点検に午後いっぱい準備期間にあてる必要があった。その後作業を実施するにあたり、夜中に作業を行うよりも、翌日に行う方が効率が良いと判断し、本日の入域となった。
- Q. 1号機における作業員の出入りは。また作業の進捗は
- A. 1号機の原子炉建屋については、地下階までは行っていない。水位を測った階段あたりで40mSv/hと高い線量を確認しており、今後、どのように地下階に進んでいくかについては検討が必要と考えている。
- Q. 1号機のダクト設置および冷却装置の準備作業の進捗状況は。
- A. 具体的な作業計画はできておらず、まともな次第公表させてはいただく。
- Q. 1号機原子炉建屋には日々人が入って作業を実施しているという理解でよいか。
- A. 毎日作業員が入っているわけではない。
- Q. 1号機における直近の作業記録はあるのか。
- A. 整理してご報告させていただく。1号機関連の作業内容としては、熱交換器ユニットおよび空冷チラーの設置を大物搬入口付近で実施している。
- Q. 3号機の今後の作業内容について教えてほしい。
- A. ロボットによる線量測定の結果、線量が高いということが判明しており慎重に作業を実施する必要がある。現在、大物搬入口があいている状態であるため、ダスト管理については1、2号機とは状況は異なるが、線量調査が必要と考えているが、具体的なスケジュールについては未定。
- Q. 3号機原子炉建屋内には、いつ以来作業員が入っていないのか。
- A. 確認させていただく。
- Q. 5月11日に3号機のピットから海への流出があったが、その総量および線量について教えてほしい。
- A. 総量は評価中であるが、線量については5月11日に公表させていただいている。
- Q. 工程表の中で、循環冷却装置の設置については5月11日より開始するとのことだが、具体的な作業内容は。
- A. タービン建屋の給水ラインに消火系からくるラインを繋ぎこんで注水を実施している。今後は集中廃棄物処理建屋の方から1号機のタービン建屋の給水ラインに注水、設置する作業の準備
- Q. 2、3号機は4月上旬から実施しているとのことだが、集中廃棄物処理建屋からの敷設作業は完了しているのか。

H23.5.18①議事メモ (最新) .doc Last printed 5/19/2011 12:08:00 AM

A. 注水冷却に切り替えるため、2、3号機については集中廃棄物処理建屋側へのホースの敷設は循環冷却の吸込側になるため、当時は既に実施したという判断になったものと想定される。1号機は吸出しと注水する方の作業を実施するという意味で、日付がずれていると考えている。

Q. 3号機の汚染水を2週間で4,000m<sup>3</sup>を移送するとのことだが、水処理施設が稼働する前に4,000m<sup>3</sup>移送してしまった場合、その間に発生する汚染水をどう扱うのか。

A. 新たな流入があるとすれば、基本的にはタービン建屋の水4,000m<sup>3</sup>を移送した部分に溜めていくことになるかと思う。タービン建屋より低い位置にあるトレンチは埋めているので、貯水量は増えるのではないかと思っている。

Q. 集中廃棄物処理施設に溜まっている2、3号機の汚染水から、汚染水処理施設までのライン構築についても併せて実施するのか。

A. プロセス主建屋の上層階にキュリオン社およびアレバ社の処理装置を設置予定であり、そこに吸着槽や沈殿槽の搬入を実施している。3号機については、雑个体廃棄物減容処理建屋への移送を検討しており、ホース等をつなげることで移送できるように進めている。

Q. 現地の医師手配状況は。

A. 福島第一原子力発電所では10～18時頃まで医師が常駐している。福島第二原子力発電所には1名、Jビレッジには2名の医者と看護師がいる状況。

Q. 福島第一原子力発電所に医師を24時間常駐させないのか。

A. 現在は日中のみ常駐であるが、24時間化に向けて少し検討を進めている段階である。

Q. 2号機の汚染水移送のため、ポンプ台数を増やす予定であったと思うが、現状は。

A. 1台で運転中であり、台数を増やす予定はない。理由としては、現時点でタービン建屋およびトレンチの水位が安定していること、約1万トンの容量に対しての半分強程度入っていること、水処理施設の稼働予定を6月からとしていること等を踏まえ、総合的に判断して決めた。

Q. 1号機の循環冷却装置については、原子炉に戻すのであればたまり水の除染処理は不要なのではないか。

A. 除染しないと濃度が濃くなる一方であるため、ある程度除染して浄化した水の方がいいことと、海水注入していたため中に含まれる塩素を取り除きたいと考えている。

Q. ライン自体も海水をフラッシングする必要があるのか。

A. フラッシングというよりも、今回の水処理で循環させることで、徐々に塩素を取り除くことを考えている。

Q. 2号機のRCICのバッテリーはどのように手配できたのか。

A. 現在確認中である。

H23.5.18①議事メモ (最新) .doc Last printed 5/19/2011 12:08:00 AM

Q. 循環注水冷却系ラインの水の濃度が濃くなるとのことだが、当初の計画していた冷却装置にも除染が必要という理解でよいのか

A. 今回は循環注水冷却にするとということを経納容器の損傷具合をみて総合的に判断したもの。もともと冠水作業においては冷却を中心にシステム構成を考えており、水処理システムを通じて循環注水が可能となり、除染した水を使用した方が良いと判断していたもの。

Q. 1号機への注水量を  $10\text{m}^3/\text{h}$  から  $6\text{m}^3/\text{h}$  に減らしたことに伴って、炉内の水位がどのように変化したのかという評価はできているのか。

A. 現時点では、注水量を減らした状態の評価はまだできておらず、注水量を上げた状態のパラメータを確認しているところ。

Q. 3号機の温度が低下傾向とのことだが、圧力容器胴フランジ部の温度も同様に低下しているのか。

A. 傾向としては低下している。

Q. 2号機原子炉建屋から作業員が出てきた時間は、また線量は。

A. 作業員が2号機から出てきた時刻は9時38分頃。建屋内に入っていた時間は約14分。作業員の被ばく線量はそれ程高くなく、3~4 mSv とのことである。ただ、湿気が多いという理由から作業時間は14分で終了した。

Q. 湿気が多いということと作業時間が短くなったとのことだが、それは作業性が悪いということか。

A. 見通しが暗い、蒸し暑いといったことから作業を早めに切り上げたものと考えられる。

Q. 作業員の被ばく線量は3~4 mSv とのことだが、その最大と最小の値は。

A. 確認させていただく。

Q. 海底への汚染水流出に関して、環境省から指示はあるのか。

A. 現時点では特段ない。

Q. 東電として、積極的に海底汚染を食い止めることを実施するのか。

A. まずは海底土のサンプリングを実施することで、現状把握に努めたい。

以上